一般論文

「日新アカデミー研修センター」の新設

Newly Established “Nissin Academy Training Center”

濟　藤　浩　久*　　下　田　勝　彦*
H. Saito　　*K.* Shimoda

概要

当社は、創立100周年の節目にあたり、次代を支える人材育成の強化を目的として、本社東側隣地に「日新アカデミー研修センター」を新設した。本稿では、日新アカデミー研修センター」の概要を解説する。

Synopsis

Nissin Electric Co., Ltd., to celebrate the 100th anniversary, built "Nissin Academy Training Center" for strengthening of human resource development on east side of its head office . In this paper, we will explain the outline of "Nissin Academy Training Center".

1．日新アカデミー研修センターの建築概要

2019年2月に竣工し、4月から運用を開始する「日新アカデミー研修センター」は、実習を通じた技術・技能の継承と育成を主目的にした実践的な教育・研修を行う施設である。

研修センターの建築概要を次に示す。

所在地　：京都市右京区梅津南日理町
敷地面積：4,995㎡
建築面積：2,671㎡
延床面積：3,235㎡
最大高さ：10m

建設地を**図1**、外観を**図2**に示す。

図1　研修センターの建設地

図2　研修センター外観

＊人材開発部

2．日新アカデミーについて

当社グループの100年の歴史を作ってきたのも「人」、次代の成長を作るのも「人」である。創立100周年の節目にあたり、次代に向けて大事な「人」の育成を強化し、教育プログラムとしての「日新アカデミー」を拡充するため、「日新アカデミー研修センター」を本社東側隣地に新設した。

2．1　日新アカデミーの創設

当社グループでは、2012年度までは階層別研修や技術・技能教育、実務教育などを部門内で個別に実施してきた。人材育成を強力に推進するため、2012年11月に人材開発部が発足し、2013年度から当社グループの教育プログラムを「日新アカデミー」として集約し、一つの学校として運営することにした。

2．2　日新アカデミーの運営

日新アカデミーの運営体制は、社長を学長とし、役員の参画による運営委員会を1回／半期で開催して、教育計画を決定し運営している。

日新アカデミーの運営体制を**図3**に示す。

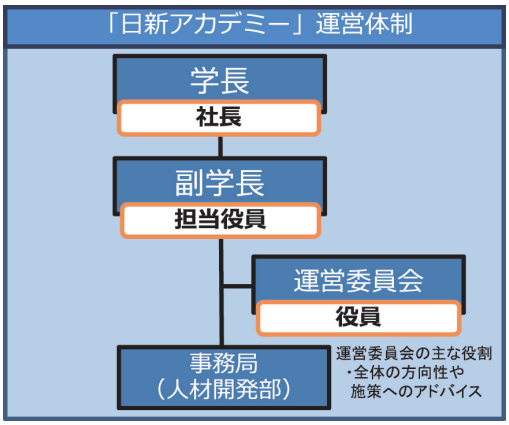

図3　日新アカデミーの運営体制

2013年度から日新アカデミーとして運営し、毎年教育カリキュラムの質と量を拡充してきた。2018年度は、2012年度に比べ、のべ受講者数を約5倍、一人当たりの受講時間を約3倍、カリキュラム数は約2.5倍に拡充することができた。

しかし、今後の教育カリキュラムの拡充を行うには、研修室や実習室、また実習設備などを増加する必要性が高まった。そこで、創立100周年を機会として、本社東側隣地に従来の研修室・実習室の約2倍の延床面積となる研修センターを新設し、教育プログラムの拡充と施設の充実を図ることにした。

2．3　日新アカデミーの教育体系

日新アカデミーの教育は、次の4本柱で推進している。

- 全員教育：企業理念・行動の原点・事業の精神やビジョン、コンプライアンス、安全などの教育
- ビジネススキルコース：ビジネスに必要な知識・スキルなどの習得
- 技術・技能コース：技術・技能の継承と養成
- 部門（関係会社）内教育：部門や関係会社内で実施する教育

日新アカデミーの教育体系のイメージを**図4**に示す。

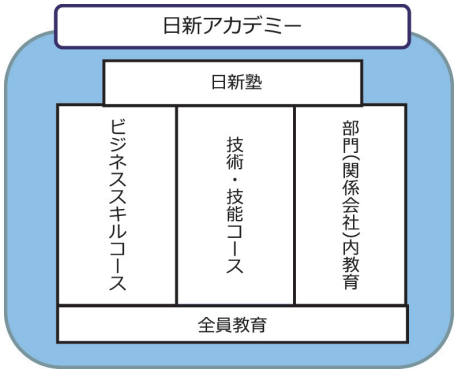

図4　日新アカデミーのイメージ

3．強化する教育カリキュラムについて

研修センターを新設し、2019年度から一層強化する、また新規に導入する教育カリキュラムについて、重要なカリキュラムをいくつか紹介する。

3．1　日新塾

日新塾は、経営に必要な人材の育成を目的として、2004年度から継続実施している。約7か月にわたり、経営に関する講座を受講し、演習で身に付け、自社課題を実践し、成果を発表するカリキュラムである。しかし、長期に継続して実施しているため、少しマンネリ化し、また社内だけでは厳しさが不足してきた。

これらを改革するため、大学とコラボレーションを行い、2019年度から次のポイントを強化した新しい日新塾を開講する。

- 大学院教授によるマネジメント基本講義と演習
- 他社社長、役員講話によるマネジメント力向上
- 他流試合（他社の参加）による厳しさの強化
- 当社経営幹部による実践的指導
- 戦略ストーリーを作り、語れる力を習得するために毎回の発表と講評、ブラッシュアップ

3．2　高度技術者育成カレッジ

新卒、キャリア採用とも高度な技術を有する人材の確保が難しい状況が続いているため、高度技術者は自前で早期に育成することが必要である。

高度技術者育成カレッジは、少数精鋭で選定した人材を高度技術者へ育成するため、座学＋実習＋活動課題の実践を通じ、指導者からアドバイスなどを受けることで実力を向上させる実践的カリキュラムである。

2019年度は、当社のコア技術の中から特に重要な技術をいくつか選定し、新規にカリキュラムを開講する。

高度技術者育成カレッジの主なテーマを**表1**に示す。

表1　高度技術者育成カレッジテーマ

事業本部	テーマ（技術）
電力・環境システム	系統技術 絶縁材料 変圧器・リアクトル パワーエレクトロニクス スマート電力供給システム
お客様サービス	施工管理 保守・点検
ビーム・真空応用	電子線照射装置 コーティング膜プロセスの開発

3．3　高度技能者育成カレッジ

当社グループは、電力・環境システムやビーム・真空応用など長い期間運用していただく装置やシステムを製造しており、保守・点検や現地での改造・組み立てなど高度な技能を必要としている。

これらの技能を習得するため、実習室に実機設備を設置し、実際に保守・点検作業や改造・組み立ての実習を行っている。

研修センターの新設により、新規設備の導入や増設を行って、実習室とカリキュラムを拡充した。

主な実習室を**表2**に示す。

表2　高度技能者育成カレッジの実習室

事業本部	実習室
電力・環境システム	受変電実習室 遮断器・GIS実習室 トランス・コンデンサ実習室 スマート電力供給システム実習室 水処理実習室 中央監視実習室
ビーム・真空応用	ビーム・真空応用実習室
その他	安全実感実習室 技能実習室 劣化診断実習室

3．4　グローバル教育

グローバルに活躍できる人材を育成することは、当社グループにとっても大きな課題の一つである。

海外赴任前教育や海外トレーニー制度は以前から継続実施しており、2016年度から海外出張・赴任候補者のためのグローバル教育コースを開始した。

2019年度からはグローバル教育コースを一層充実するとともに、中国やタイ、ベトナムなどの海外関係会社研修を拡充する。

グローバル教育コースの概要を**表3**に示す。

表3　グローバル教育コースの概要

セッション	講座名
1	企業理念・行動の原点・事業の精神・ビジョン
2	海外のビジネス事情
3	現地法人経営者講話
4	財務リスク管理
5	セルフマネジメント
6	マネジメントの原理原則
7	マーケティング
8	ミッション明確化
9	英文Eメールライティング
10	語学学習

海外関係会社研修は、研修センターにTV会議システムを導入し、本社と同様の研修が受講できるようにしている。また、大研修室には通訳ブースを設置し、研修や発表が同時通訳できるようにした。

これにより、従来から講師が現地出向して実施していた研修に加え、**表4**の研修を拡充する。

表4　海外関係会社研修の概要

研修名	概　要
駐在員経営層研修	マネジメント研修 ビジネススキル研修 各種講話や発表会
ローカル幹部育成研修	企業理念・ビジョンの共有 マネジメント研修 ビジネススキル研修 本社工場・研修センター見学
ローカルリーダークラス育成研修	企業理念・ビジョンの共有 ビジネススキル研修 改善手法研修

4．研修センターの建物・設備について

研修センターの建物は、京の伝統と機能の革新が融合する外観デザインで景観に配慮している。さらに外構や緑地は、「京都市緑の基本計画」に沿って、「生物多様性＋雨庭」をコンセプトに緑地を敷地内に多く配置することで環境に配慮している。

図５　緑地

省エネ対策としては、太陽光発電パネル約1,000㎡を実習棟の屋根全面に設置し、照明は全館LED照明として、廊下・休憩スペース・トイレなどは人感センサ制御を行っている。

また、高断熱屋根や複層ガラスを採用して日射や冷気を遮断し、中庭を風道とした自然換気を活用するとともに高効率空調を採用することで、空調負荷の低減を図っている。

省エネ対策のイメージを**図６**に示す。

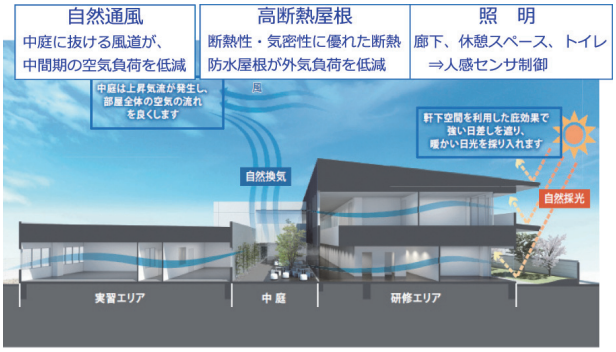

図６　省エネ対策のイメージ

研修センターは、2階建ての研修棟と1階建ての実習棟から構成されている。また、同施設内に社員間などのコミュニケーションの場となる「日新倶楽部嵯峨野荘」を併設している。

4．1　研修棟

研修棟は最大300名を収容できる大研修室を1階に配置し、各種の研修や会議、発表会などに活用できる。2階には20～30名の研修ができる中研修室を6室配置し、各種の研修を同時に開催することが可能である。

中研修室は、2室を1室として使用可能であり、60～80名の研修も実施できる。

また、2階の中研修室の一部は、多目的室として地域の子供たち向け理科教室やロボット教室など、地域貢献活動の一環として開放する。

施設内には約60名が食事できる食堂を完備し、研修受講者などが本社食堂まで行かずに昼食をとることができる。

研修棟の主な施設を**表５**に示す。

表5　研修棟の主な施設

施　設	概略面積（㎡）
大研修室（1階）	160＋160
中研修室（2階）	80×6
応接室（1階）	30
事務室（1階）	80
食堂（1階）	80
更衣室（1階）	30＋20
トイレ（1階・2階）	30＋30＋10
エントランス（1階）	60

4．2　実習棟

実習棟は、大小14室の実習室を備え、電力・環境システム、ビーム・真空応用などの実機設備を設置し、操作、保守・点検や改造・組み立ての実習を行える。

実習棟の主な施設と設備を**表６**に示す。

表6　実習棟の主な施設と設備

施　設	設　備
受変電実習室	77kV模擬受配電設備 22kV受電設備 6kV受配電設備
遮断器・GIS実習室	縮小形ガス絶縁開閉装置 遮断器・開閉器
トランス・コンデンサ実習室	油入りトランス タンク形コンデンサ
スマート電力供給システム実習室	パワーコンディショナ エネルギーマネジメントシステム
水処理実習室	上下水道監視制御装置 動力電気装置
中央監視実習室	中央監視制御設備
ビーム・真空応用実習室	真空排気ユニット
安全実感実習室	安全実感設備 VR体験設備
技能実習室	ねじ締め、圧着、配線など訓練設備 盤加工実習用設備
劣化診断実習室	高圧劣化診断設備

実習棟の設備を活用して、お客様の保守担当の方々に保守・点検などを実習していただくお客様コースは、今後も継続して開催していく予定である。

また、太陽光発電パネル約1,000㎡を実習棟の屋根に設置し、スマート電力供給システムの実証システムを導入して、予測・最適運用計画・制御技術などの最新技術の養成を実施していく。

実習室の部屋割りは、今後の実機設備増加・新規追加に柔軟な対応が可能なパーテーション方式を採用している。

実習室の例を**図7**に示す。

図7　GIS実習室、トランス・コンデンサ実習室

4．3　「日新倶楽部嵯峨野荘」

研修センターに併設された「日新倶楽部嵯峨野荘」は、昨年まで保養施設として利用されていた旧嵯峨野荘を継承する施設である。「日新倶楽部嵯峨野荘」では、社員相互をはじめ、ステークホルダーとのコミュニケーション空間を提供し、縦・横・外とのコミュニケーションを一層充実させる。

「日新倶楽部嵯峨野荘」は、5部屋から構成され、最大48名の大広間や8名までの小部屋などがあり、食事をしながら、ゆっくりコミュニケーションを深めていただける空間である。

坪庭などの庭園には、旧嵯峨野荘から移設した灯篭などもあり、京都らしい趣としている。

入口を**図8**に示す。

図8　「日新倶楽部嵯峨野荘」の入口

5．おわりに

2019年4月運用開始の「日新アカデミー研修センター」は、これからがスタートであり、今後教育カリキュラムと実習設備を一層拡充していく。研修や実習で向上した知識やスキルなどが、実際の業務で活用され、人の成長が日新電機の成長に繋がるように、今後とも人材育成に努力を続けていく所存である。

✎執筆者紹介

濟藤　浩久　Hirohisa　Saito
人材開発部

下田　勝彦　Katsuhiko　Shimoda
人材開発部長